和教時報

2022年10月15日（土）発行　第1990号（毎月15日発行）
発行所／〒640-8269 和歌山市小松原通3-20　和歌山県教職員組合
TEL 073-423-2261　FAX 073-436-3243　情宣部長／山口法之
1部　20円（購読料は組合費に含みます）

和教組ゆるキャラ みばん

賃金は国準拠、多忙問題では「具体的な成果」を求める

2022県人事委員会勧告

和教組　書記長　川口　貴生

一〇月一二日、県人事委員会が知事等に対し「職員の給与等に関する報告及び勧告」を行いました。人事委員会は、従業員五〇人以上の県内事業所の四月の賃金と県職員の賃金と比較し、賃上げ（ときには賃下げ）を勧告します。同時に「労働基準監督機関」でもあり、超過勤務やハラスメントなど私たちの働き方についても様々な指摘を行います。

夏以降、和教組は他の公務労組と人事委員会に対し二回の交渉を行い、学校の多忙や、県教委の「働き方改革」では効果がないことなどを訴えてきました。勧告には、私たちの訴えが一定反映されています。

賃金は国家公務員に準拠し、三〇代半ばまでの職員の月例給の改善、一般職員の勤勉手当〇・一月改善（再任用〇・〇五月）を勧告しました。

一方、超勤問題では、昨年は県教委に対し「教育職員の負担軽減のための取り組みを強力に推進」することを求めましたが、今年は「具体的な成果を出す必要がある」といっそう厳しい記述になりました。超過勤務の実態が何ら変わっていないことをふまえた指摘ですが、「県教委はもう言い逃れはできないぞ」と言っているように聞こえます。

「仕事と家庭の両立支援の推進」では、育児や介護を行う職員が活躍できるよう、「職場におけるサポート体制を整えること」を県教委に求めました。これは、「職場でサポートせよ」という意味でなく、県教委に体制整備を求めたものです。ハラスメントについては、「相談窓口の周知など、実効性のある取り組み」を求めました。

会計年度任用職員は、制度として期末手当はありますが勤勉手当がありません。一般職員と同様にボーナスを引上げさせることが課題となっていますが、今回、県人勧が「期末手当を引上げることが適当である」と報告したことは大きな意味があります。

労働条件は労使の交渉によって決まりますので、この勧告によって自動的に条件が改善するわけではありません。勧告も生かしながら確定交渉を元気にたたかっていきましょう。

輝いてワンショット

60才以上の給料を下げるな!!

（定年引き上げ交渉より）

ピンポイントスポット 405

朝ドラを見る、というルーティーンが突然奪われた。

北朝鮮の中距離弾道ミサイルが日本の上空を越え、排他的経済水域外に落とされた。「またか…」と思っていたが、新しい情報が入らない中、このニュースを流し続けるNHK。民放も同じ映像ばかり。中継で中国の特派員にも国民の受け止めを聞いたり、日本の漁港を映して影響がないことを確認したり。テレビまで北朝鮮にジャックされたのか？と思う程の違和感を覚えた。アナウンサーが強調したのは「今回のミサイルは四〇〇〇mを超え、グアムまで届くものになった」ということだった。この時間にテレビを見ている層の一部は「やっぱり攻撃能力をもつべき」と思うのだろう。そして開かれたばかりの国会でもこの話題にもっていかれるのではないだろうか。（I）

50周年

歴史を刻み、「未来をひらく 教育のつどい」

（12月３日・一日開催）

この三年の間に学習指導要領が改定し、新型コロナが広まった事でＩＣＴ機器の整備が前倒しされました。大人もなかなかマスクが手放せない中、人との繋がりがますます希薄になってはいないでしょうか。

この「教育のつどい」はコロナ禍前には県下から約一〇〇本のレポートが集まり、大勢の参加がありました。集まる機会が減っても学び続ける事や人と繋がり「聞いて欲しい」と思う教職員の声は絶えることはありません。

各支部では小規模の学習会が開かれたり、オンラインでの会議が可能になってきたり、と工夫されてはいますが、県下の教職員や関係者が集まるのはこの機会しかありません。

是非この集会の意義を感じ、明日からの教育実践の糧にして下さい。

分科会に参加しよう

それぞれの分科会では世話人の方々が奮起して下さり、着々と準備を進めています。教科の実践交流はもちろん、オンラインでは難しかった教材の紹介や実技交流も可能です。また、各校種で話合われている観点別の評価については子ども達の成長を軸として話合いたいという分科会も多くあります。ＩＣＴ機器を使った教材の紹介も進められてきました。子どもたちの興味や関心を引き出す上で、有効活用しているレポートも段々増えてきており、オンラインを併用する分科会もあります。ニーズの中には該当する分科会はないけれど、「会計年度任用職員で交流がしたい」という声や、『部活動の地域移行』の話もしたい、という声も寄せられ、特設分科会を設けることも検討しています。

みなさんで作り上げる「教育のつどい」です。今までのやり方にとらわれず、どうぞ積極的にご参加下さい。

全体会にも参加しよう

午後からの全体会では本田由紀さん（東京大学大学院教授）にリモートでご講演いただきます。

少人数学級の呼び掛け人として、文科省前でも集まった方々にお話をして下さったのが印象に残っていますが、教育の問題をあらゆる視点から切り込み、ツイッターでも発信を続けられています。

「学力テスト」について「競争をすることで、子どもがやる気を起こすという風に言われますが、テストがないと学習に向かえない子どもになっていくことが問題」という投稿がありました。今回は短い言葉ではなく、学力観や子ども観をもっともっとお聞かせいただけると思います。

分科会会場から引き続きご参加いただくか、書道資料館にお越しいただき、皆で視聴しましょう。

福島に行って感じたこと

伊都支部　きのかわ支援分会　山口　遼

九月二三日～二四日で全教「二〇二二年　被災地を見る・歩く・考える」行動に参加させてもらい、東日本大震災のことや福島原発事故のことなどを学んできました。

私自身最近は、ネットやニュースで復興が進んできていることを耳にしていたので、「福島は、だいぶ復興してきているんだな」と思っていました。しかし、実際に帰還困難区域を見たり福島に住む方からお話を聞いたりして、私は本当の福島の姿を知らなかったのだと気づきました。そして人ひとりいない地域や荒れ果てた建物を見て、福島の現状を痛感しました。

見学では、震災遺構である請戸小学校や震災を後世に伝える伝承館など、東日本大震災に関する建物を見学し、震災の怖さと共に復興に向けて尽力する人たちの努力を感じました。私は、伝承館の福島原発の映像や爆発の原因解説、震災直後の住民避難の様子などが映像で展示されていて非常に心に残っています。実際の映像も用いられていたので、当時の様子がとてもわかりやすかったです。

この二日間を通して復興にはまだまだ時間がかかるものの、復興に向けて頑張っている方がたくさんいらっしゃることも知りました。そして実際に現地の様子を見せてもらえて、とても勉強になりました。

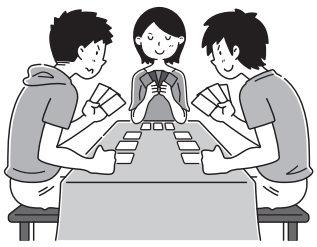
一人じゃできないことを★ゆる～く ボードゲームで あそんでみよう！

和歌山市支部青年部主催

「何か楽しいことしたいなぁ」「とにかく集まりたい！」コロナ禍の中でなかなか集まれませんでしたが、九月二二日、青年部主催で、「ゆる～く ボードゲームで あそんでみよう！」を開きました。

初めて組合イベントに参加する青年や、フライヤーを見て駆けつけてくださった先輩先生など、合わせて一二人の参加でした。白石青年部長が持ってきてくれたゲームを中心に、みんなでワイワイ！

ボードゲームと一言で言っても、種類は様々。みんなで記憶をつなげていく協力型ゲーム、カタカナの言葉を使わずに説明するゲーム等…。さらに、参加者が持ってきてくれた、みんなの変顔を見てお題のカードを当てるゲームにもチャレンジ！



時間が全然足りず、そして、気がつけば仕事の疲れはすっかり吹っ飛び、延長戦！ちょっぴり豪華なスイーツをいただきながら、仲間とのあっという間の時間でした。参加者からは、「また参加したいと思います！」「交流できて良かったです。是非、このような機会を増やしてください」などの感想をいただきました。

次も集まりたい！と、第二弾の日程も決まっています。皆様、また是非ご参加ください♪

ぜひ あなたにも 読んでいただきたい この一冊

5 「三千円の使いかた」

（原田ひ香　著）

海草支部　巽小分会　**目崎　涼斗**

この題名をみて、自分なら三千円をどのように使うか考えたのではないでしょうか。「三〇〇〇円にもう少し足せば色々できるのに…」という人や、「全部貯金!!」と思った人もいるのではないでしょうか。私は「ラーメン一〇〇〇円、漫画六〇〇円、残り一四〇〇円をどう使おうか…」と考えました。三〇〇〇円の使い方でその人となりが分かり、人生が決まるそうです。私は大丈夫でしょうか…。

作中では四人の女性が人生の岐路に立たされ、それぞれの未来（老後の暮らし、子どもが巣立ったあとの家族の在り方、ちいさな子どもがいる家族生活、結婚など）を考えます。その中で、友達など周りの人の暮らしと自分の暮らしを比べてしまい「本当に今のままでいいのか」と悩みます。その時に「他者は他者、自分は自分」と自分が納得できる上手な方法を考えますが、頭では分かっていても気持ちがそこに追いつかず、ふとした瞬間に思い出し、また比べてしまって不安になってしまいます。そんなことは彼女らだけでなく、自分たちにもよく経験がありますよね。

全く新しいことにいきなり挑戦してみる、自分を大きく変えてみることはなかなか思い切りもつかず難しいと思います。まずは小さな一歩から始めてみてはどうでしょうか。

自分ができることからコツコツと、例えば一日に一〇〇円を貯金し、一か月で三〇〇〇円を貯める。その三〇〇〇円をどう使うのか、この一冊とともに考えてみてください。

知事選挙を通じて 要求実現を！

一一月一〇日告示、二七日投票で県知事選挙が行われます。和教組も加盟している「ゆたかで住みよい和歌山県をつくる会」では、候補者擁立に向け、努力してきましたが、残念ながら候補者擁立には至りませんでした。

現時点では、岸本周平氏・本間奈々氏・松坂美知子氏の三名が立候補を表明しています。和教組としては、投票の際の参考となるよう、教職員の切実な要求や願いである多忙解消・教育条件整備・民主教育の発展・子どもの貧困対策などに関しての「公開質問状」を各氏に送付し、回答を紹介していきますが、投票に行って、県民・教職員の願いが届く県政を実現しましょう！

教弘の事業案内

福祉事業（教弘保険加入者に限定）
- 祝金の給付　　結婚　1万円　　出産　5千円
- 健康増進補助事業　人間ドック等の健康診断に3千円の補助
- マイカー購入補助　マイカーの購入に１万円の補助金
- 宿泊費補助金（教弘指定ホテル）　1泊3千円、年間2回利用可
- 誕生日（35歳、45歳、55歳）に記念品を贈呈

貸与奨学金事業（募集期間3月1日～ 4月20日）
- 無利子で奨学金（上限100万円）を貸与

教育研究助成事業（公募期間5月10日～ 6月末日）
- 現職教育活動支援
- 教育研究大会助成（近畿・全国大会）
- 教育サークル等助成

日教弘教育賞実践論文募集（毎年9月末締切）

公益財団法人　日本教育公務員弘済会和歌山支部
和歌山市小松原通3-20　☎073-421-7881